

いしかれん だより

第22号
1999. 2

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-0064 金沢市南新保町ル3番1
石川県精神保健福祉センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

巻頭言

社会参加と家族会

石川県精神保健福祉センター

所長 清田吉和



石川県精神保健福祉センターに来てようやく10カ月が過ぎようとしています。この間、家族会の皆様方とお会いする機会も増え、精神障害者の社会参加について深く考えさせら

れています。10年ぐらい前の私は、目の前の患者さんの病態にとらわれ、急性期の治療を行い、その人の生活の大部分をしめる日常生活は見えていませんでした。言わばなし、薬の出っぱなしをしながら、病気の再発は〈服薬しない患者さんが悪い〉とどこかで思っていたようです。その頃に比べ、近年、行政や医療関係者の間での精神障害に対する治療や障害者の社会参加に対しての認識も、目をみはる程の発展が見られています。

しかしそのような状況の中でも、「病伏が安定しても社会参加がままならない」「いつ再発するか、爆弾を抱えてるようなものだ」その家族の方々の思いは計り知れません。そのような思いを抱く家族の方々にとって自助グループとしての家族会活動はかけがえのないものだと思います。

近年、石川県でも精神障害者の社会参加に寄与する社会資源が増加し、新しい事業や試みが

次々となされております。しかし、その中で新規会員の定着の不足、家族会々員の高齢化、時間的・経済的・精神的負担の増加などの問題もみられます。家族会々員が疲れ、余裕のない状態となり、障害者自身を含めての家族関係が、張りつめたものにならないければよいがと考えたりもいたします。家族会活動の原点である、自助グループとしての家族会の在り方を見つめ直し、病気と障害者に対する理解を深め、心の拠り所としての家族会の確立・拡充が望まれます。そのためには、例会の充実を通して、障害者自身の声や家族会々員の声を丹念に拾い上げる活動が必要ではないでしょうか。さらには、医療関係者や行政の窓口担当者、地域に対しての、地域や病院家族会の存在・活動のアピールによる広報・普及も大事です。「家族会があるよ」「家族会がいいところ」と、わかってもらえなければ会員の拡充は望めません。そして、そのような活動が基礎となり、安心して居られる場所としての家族会がつくられると思われます。国際障害者年を契機として、手探りしながらも次々に国の施策としての障害者計画が打ち出されています。それらに対して、障害者と家族会々員自身が足元を見つめながら、選ぶ権利と同時に、選ばない権利をも行使して頂きたいと思います。

林 前 会 長 を 偲 ん で

石家連前会長 林久夫様には、平成10年11月22日病氣療養の甲斐もなく、73年の生涯を閉じられました。ここに追悼文を載せ、生前の林前会長を偲びたいと思います。

石家連 会長 西 出 外 次

光陰矢の如し、月日の経つのは早いもので貴方の死が昨日のように思えてなりません。貴方は苦しい病魔と闘われ生への道へと努力されましたが、薬石効無く運命のいたずらには勝つ事が出来なかった事が本当に残念でなりません。

林さん、貴方は十数年の長きに渡って精神障害者の家族の交流や、住み良い社会を目指しての活動に大きな力を発揮して下さいました。病を抱えながらも、北信越ブロック石川大会の開催に向けて何回となく小松市役所へご一緒させていただいた事が、昨日のここのようになつかしく思えてなりません。家族会のために県内至る所に足まめに出向き援助の手を差しおのべられましたことは、長く会員達の心に残り今後の活動に向けての大きな足がかりになる事と思います。

私たち小松能美地区にもようやく社会復帰施設設立の見通しが立ってきました。この大切な時期に強力なリーダーシップを持った貴方を失

った私どもの悲しみは尽きません。

福祉の道は一つの峠を越えれば次の峠が待っています。障害を持っても住み慣れた町で自分らしい生活が続けて行けるように、この町に住んで良かったと言うことが出来るように、家族の願いの実現に向けて活動を続けてゆきたいと思っています。

林さん、どうか安心して私たちを見守って下さい。県連家族会は21世紀を素晴らしいものにするために、一同エンジンを全開して努力するつもりです。

貴方の生前の偉業をたたえ、感謝の意を表すと共にご冥福をお祈り致しましてお別れの言葉と致します。

合掌



林 前 会 長 の 業 績

林前会長は、昭和60年頃、当時まだ地域家族会のなかった松任・石川地区において、家族会活動の重要性を訴え、発会にむけて努力されました。

昭和61年5月に松任・石川精神障害者家族会（ちよに会）発会と同時に会長に就任し、地域家族会活動の活性化に努力されるとともに、石川県精神障害者家族会の副会長としても活躍されました。

平成3年6月に石川県精神障害者家族会連合会の会長に就任、お亡くなりになるまでの4期7年半にわたって、連合会の発展と精神障害者の社会参加促進にむけて尽力されました。

平成8年9月小松市で開催された北信越ブロックの研修会を、地元のくろゆり会をはじめとする関係者ともに企画し、多くの参加者を得て大成功を収めたことは記憶に新しいと思います。

平成6年度に石川県精神保健協会の特別功勞表彰、平成8年度には精神保健事業功勞者知事表彰を受賞されています。

思えば私が県連家族会に入った頃、林さんは副会長としておられました。その実行力と笑い声の中から、家族会という弱者が互いに支え合うということを教えられました。

平成2年に輪島市に於いて講演と映画の会を開き、家族会もやれば出来るということを学ぶ機会になりました。平成3年、湯野会長から会長を引き継がれ、その11月には山中温泉で北信越ブロック研修会を開催、319名の参加を得ました。

当時の家族会の動きは、地域に共同作業所を



必要としながらも現状では家族会が運営するには負担が多すぎる、まず地域医療の充実を、と訴えていたように思います。平成5年には鳴和の里、富来すみれ作業所が開設され、今では県内に14作業所となりました。

平成9年、会長には視力が一段と低下された中にも県連の会議に進んで出席されていましたが、この年に最も恐れていた胃癌で入院、手術をされました。退院後も県連の動勢に心を配られ、いつも心遣いを厚くされていました。昨年11月21日に病床を訪れましたときにはあの元気なお姿が無く、身体全体が小さく見受けられ奥様にご挨拶の言葉もない淋しさでありました。明けて22日の払暁に帰らぬ人となられたそうです。そして24日の葬儀には心のこもった弔電にまぶたを熱くし、あらためて林会長への感謝の念で一杯になりました。

ここに深く御礼申し上げ、併せてご冥福をお祈りいたします。

ちよに会 会長 大 橋 昭 子

林前会長のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。2年ほど前から体調が悪いとはお聞きしておりましたけど、最後まで気丈に石家連の会長として元気に頑張っておられた姿が思い出されます。

私が林さんと初めてお会いしたのは平成3年5月頃だったと思います。林さんは61年に松任石川精神障害者家族会ちよに会を発足させ、会長として会の育成に力を注がれました。ちよに会には全国や県内の他市町村の活動をふまえての助言をいただいたものでした。亡くなられる半年前位より「石家連の会長を退いたら又、ちよに会に参加して地域でゆっくり活動したい」と言っておられました。私達も石家連で体験されたことなどを色々ときかせてもらえることを

楽しみにしておりましたので残念でなりません。今後は前会長の意志をついで何でも話し合えて、親も子も良くなるような定例会（学び）を大切に、地域のボランティアや関係機関と連携して地道な家族会活動をしていく所存です。



病院長との懇談会

—平成10年11月4日

石川県精神保健福祉センター—

今回は新しい試みとして、午前中は行政との懇談会、午後は松原三郎先生の「これからの精神医療と家族会活動」の講話のあと、病院長との懇談会を開催しました。

行政との懇談会

鳴和の会 中 農 良 男

始めに加藤県健康推進課課長から石川県の精神保健福祉行政の現状についてお話をお聞きした後、質疑応答の形で懇談しました。

「緊急時の対応の仕方」「手帳の更新における書類の簡素化」「医療費の補助」「手帳サービスの拡大」「行政担当者は精神病について勉強してほしい」「各保健所に心の相談窓口の設置、又は精神保健担当課の設置」「作業所に対する補助金の増額」「作業所の増設」「委託事業」「障害者年金の情報」等について質問、要望がありました。

石川県としては、財政面及び制度上の問題はあるが、家族会の意見を十分に聞き入れてこれからの施策に反映させたいとのことでした。

私達家族は、親なき後の心配事、就労に近い授産施設、仲間と話し合える憩いの場所、夜間の相談窓口、グループホームなどの必要性を切

実に感じてきましたが、これらの大きな事業につきましても、家族会のみでは不可能なことがあります。可能にするためには、どうしても行政の支援、指導をいただかなくてはなりません。

ぜんかれん誌によると、東京都の某家族会が区議会議員にグループホームおよび生活支援について請願を出したところ、厚生委員会にて満場一致で採択され、生活支援センター開設に向けて、地区精神保健連絡協議会専門委員会が発足したとのことでした。

石家連も家族だけでは限界のあることでも、家族会が行政に訴えて行くことにより、少しずつ変わっていくことを期待します。



病院長との懇談会

泉の会 草 開 實

家族会より16項目の質問要望事項を出し、病院長から意見、助言をいただきました。

○質問 総合病院と単科の精神病院では、患者の状態や治療に違いがありますか。

回答 総合病院…身体合併症を持っている人を対称。

単 科…リハビリテーションに力を入れている。使えるメニューが多い。

○質問 病院でのカウンセリングの対応について聞かせて下さい。

回答 自分自身をよく見つめていこうとする人に行っている。健康な部分を強調す

る。

○質問 病院と地域の作業所との連携をもっと密にして下さい。

回答 病院からもお願いしたい。病院でのデイケアは通院している病院が違っていてもよい。

石川県精神保健福祉協会の皆様と家族会連合会の会員の懇談のみならず、今後もっと相互の理解が必要となってくると考えられます。

このような懇談会を通して病気に対してより正しい知識と考え方を身につけていきたいと思います。

精神保健福祉法の改正と問題点について

講師 全家連常務理事(弁護士) 池原 毅 和 氏 (記録 紺谷 徳子)

去る11月21日、社会復帰勉強会と石家連の共催で、公衆衛生審議会専門委員会の委員でもある池原先生をお招きし、当法の問題点についてお話を聞きました。以下簡単に要旨をまとめました。

精神障害者に対する施策は、この「精神保健福祉法」に基づいてなされています。平成11年の法改正では、専門委員会を取り上げられた大きな柱、医療、権利擁護、福祉の三つを規定し、充実させる法律に改める必要があります。

①保護者制度について(医療の中で)

保護者の役割(精神保健福祉法22条)

- (1) 治療を受けさせる義務と協力
- (2) 自傷他害の防止
- (3) 財産上の利益を守る

問題点

この法律はおよそ精神障害者は「自傷他害の危険性がある。自分の病気のことは分かっていない」ものとしてつくられている。現在障害者217万人のうち入院患者30万人、医療保護入院10万人、自傷他害の危険のある措置入院5千人であるから、

- ・自傷他害の危険性のある割合は217万分の5千となります。0.1%に満たない者のために99%以上の者に保護者の監督をつけるというのは障害者と保護者に不必要な負担を課すものである。
- ・病識がないということについてもちょっと間違いではないか。医療保護入院10万人として200分の10は5%~10%で法律制度と

して必要なのかという問題がある。

法の改正で修正しなければならないポイント

「治療を受けさせる。協力が必要」という点で、保護者制度を残しておくのがよいのかどうか。

精神障害者の親は65才以上4割、70才以上3割、年収300万以下3割。障害者を支えてきて疲れている。抑鬱度が高い。家族というシステムだけでは支えきれない。必要以上に保護者の役割をかぶせ過ぎた結果、役割が果たせていないのが現状である。

改正案

- ・保護者制度の任期を定める。
- ・保護者をつけないといけない対象を絞り込みましょう。
- ・自分で自分の健康を管理できる人には保護者は要らない。自己決定権を認める。
- ・自分で病院へ行くのが困難な人を病院へ連れていく方法を考える。

②権利擁護としての精神医療審査会

患者の不服申し立ての認容率が0.1%という低さ。しかし、病院の人権問題が消え去ったとはいえない。そこで精神医療審査会の対象を医療機関から社会復帰施設に広げていこう。第三者的チェックの必要があるのではないか。

③福祉を市町村で考えよう

身近なところで考えられるようにする。



トピックス 見ました 聞きました

「北信越ブロック研修会」

H10. 9. 24～26

福井県小浜市サンホテルやまねにて
記念講演「心の健康」 講師 なだ いなだ氏
アルコール中毒の患者を拘束しない治療法を
とることで、患者自身が自分から治そうとする
意識を持つようになった話。

- 医者は患者を励ましてあげることが大切。
 - 治療の意味を説明し、患者がそれに同意して
初めて治療が出来るということ。
- 病気の主役は患者であるということをわかり易
く教えてられました。(宮井)

精神障害者通所授産施設「ワークハウスとなみ野」見学記

H10. 11. 8 鳴和の里家族会(福祉バスにて)

資金作りは、作業所時代の家賃の貯金、砺波
総合病院の木下先生のジャズコンサートの収益
金。家族会によるバザーの収益金。募金。寄附
金など。敷地は、砺波市より提供された。

(中農)

「第31回 全家連東京大会」

H10. 10. 16～17 東京・京王プラザホテル

日本武道館にて

初日は関係職員、助言者、メンバー、参加者
で、熱のこもった各分科会が行われました。2
日目の大会式典に衆参国會議員18名の参加を
得、近年にない大盛会で、最後に飯田橋まで街
頭アピールいたしました。

私達もかくさない生き方で頑張ろうの意欲を
強くした実のある東京大会でありました。

(梶)

「障害者フェスティバルときめきin七尾」

H10. 10. 24～25 七尾サンライフプラザにて

多くの個人、団体の協力を得て、三障害合同
で盛大に行われた。ときめきステージ、体験、
展示、販売、相談の各コーナーなど初めての企
画でしたが皆楽しく参加出来た。全家連の署名
も沢山集めることが出来ました。(佐渡)

「精神障害者小規模作業所即売会」

H10. 12. 5～6

ジャスコ松任ショッピングセンターにて
今年は障害者デーに近い土日で開催すること
が出来、テレビの放映もあり、明るい雰囲気か
お茶の間にも伝わって来ました。金城短大の学
生さんがボランティアでやって下さった縫いぐ
るみによるPRは好評でした。(紺谷)

「しらぎく会 堀野秀子さんの表彰」

第31回全家連東京大会で理事長表彰を受けられました。多年に渡り「しらぎく会」の役員として
会の発展やグループホーム、社会復帰施設設立に貢献された功績をたたえられたものです。

お知らせ

「心のふれあい講演会」

- ・日時 平成11年3月13日(土) 12時30分～15時30分
- ・場所 金沢市保健所3階 健康ホール すこやか
- ・講演 「べてるの人達が大切にしていること」
講師 べてるの家のスタッフ/牧師 濱田裕三氏
- ・ビデオ上映 「“孤独な病”と向きあって」
- ・べてるの昆布販売、作業所作品展示即売

編集後記

思いもかけないことでした
が、林前会長の追悼文を特集す
ることになりました。

これからもこの「いしかれん
だより」を充実させ前会長にも
喜んでいただけるものにしたい
と思っています。

今回もたくさんの投稿有り難
うございました。